



共に創る掛川
鈴木久裕

掛川城と周辺の景観向上を

Q 掛川城周辺区域の景観向上策について、無電柱化の方針並びに、地区計画や掛川市生涯学習まちづくり土地条例に基づく建築物の規制・誘導の方針を伺う。

地域の方々の意向をもとに検討していく

A 平成30年に策定した歴史的風致維持向上計画の中でも、歴史的な街並みに調和した空間の整備を図るための無電柱化を位置づけているので、今後整備エリアや手法を検討していきます。建築物の規制や誘導については、地域住民の理解が欠かせないので、第一・第二地区まちづくり協議会のまちづくり計画を後押しする中で、検討していきます。

小笠山の利活用増進を

Q 小笠山の自然保護や利活用増進のためには、袋井市と広範に連携していくことが必要と思われるがいかがか。かつての小笠山協議会のような組織の再設置も含め、考えを伺う。

中東遠地域での広域的な活用を進める

A 小笠山の自然保護と高度総合利用を図るため、昭和58年に「小笠山協議会」が発足しましたが、現在、協議会は休止状況にあります。エコパの建設や道路整備などの大きな成果もあったので、袋井市と連携協議し、中東遠地域での広域的な活用を進めていきます。



小笠山から掛川市街と南アルプスを望む

学童保育所における支援員の業務の負担軽減を

Q 年1000人規模で増えている学童保育所の入所需要の高まりを考慮し、入所基準の明確化・統一化と、入所までの事務作業を保育園同様に行政が担うシステムの構築が必要と考えるがいかがか。



市内の学童保育の様子

行政も踏み込んで検討していく

A 手続き等については、統一的に事務処理を行えるよう行政も踏み込んで、検討していきます。

健康への意識啓発に若い世代から企業とのタイアップを

Q 20代女性の2割が痩せすぎで、その影響が子どもにも及ぶことから、10代後半の時期に企業とのタイアップにより健康測定や出張健康講座、体操などを実施することが効果を生むと考えるがいかがか。

企業と連携し取り組んでいく

A 平成22年度から市内の高校生へ生活習慣予防の食育講座や命の大切さを伝える社会人講座を実施しています。また、毎年10月に開催している「健康フェア」では、多くの企業に協力いただき、そこに高校生も参加し、健康情報を発信しています。今後もこれらの事業の中で、女性の痩せすぎの弊害について現状を伝え、企業とも連携し、若い人たちが参加しやすい各種測定や、その結果への対処も学べるよう取り組んでいきます。